

ワーキンググループ②(地域人材育成グループ) 活動報告

報告者:ワーキンググループ② リーダー 小出

1. はじめに

ワーキンググループ②(地域人材育成グループ)では、地域の中小企業と教育機関が連携し、地域の未来を担う人材を育成するとともに、若者が活躍できる場所を創出することを目的に活動してまいりました。本日は、今年度の活動実績と、来年度に向けた展望をご報告いたします。

2. 今年度の活動実績:各教育機関との連携模索と対話

今年度は、市内の各教育機関(杏和高校、緑風館高校、啓成高校、特別支援学校、名古屋文理大学)の現状と課題を把握するため、メンバーで手分けをして学校訪問とヒアリングを実施いたしました。

- **高校との連携の芽:** 杏和高校では、学生主体で進める探究学習「マイプロジェクト」の運用実態を伺い、中小企業との連携に高い関心をお持ちであることを確認しました。緑風館高校では、探究の時間を中心としたキャリア教育や農家での実習など、地域と関わる取り組みについて共有し、各校の特色ある活動を学ばせていただきました。
- **名古屋文理大学での特別授業:** 1月9日には、同友会メンバーが講師となり、「10年後の自分と地域」をテーマに学生の皆様とのグループ討論を実施し、働くことへのイメージや地域に対する思いについて意見交換を行いました。

3. 名古屋文理大学 栗林教授への御礼とお願い

この場をお借りいたしまして、本日までご出席されております名古屋文理大学の栗林教授に心より御礼を申し上げます。今年度、先生の講座の1枠を頂戴し、若者のリアルな声を聞き、共に地域の未来を語り合うことは非常に大きな刺激となりました。誠にありがとうございました。つきましては、学生の皆様が地域や地元企業に関心を持つきっかけをさらに広げていきたいと願っておりますので、来年度も今年度以上に学生の皆様と交流できる機会をいただけますようお願い致します。

4. これからの展望:新規プロジェクト『イナプロ』の推進

今年度の各学校との対話を踏まえ、私たちは来年度に向けた新たな構想として、稲沢に特化した地域連携型プロジェクト『イナプロ(仮)』を推進してまいります。

- 『イナプロ』の理念: 稲沢の資源・強み・課題に軸足を置き、若者の柔軟な感性やデジタル技術を活かして、地域の魅力を現代的に再編集・価値転換していく事を目指します。
- 学生主体のビジネスプランコンテスト: 各学校の特色(緑、商業、福祉等)を持ち寄り、稲沢の資源を活用したビジネスモデルを発表するコンテストを構想しています。

- **社会実装への伴走：**学生の素晴らしいアイデアを笑い話で終わらせず、行政・企業・学校が連携して一部でも「事業化(社会実装)」できるよう、私たちが真剣に評価し伴走する仕組みを構築します。

-

5. 結びに

地域全体で若者を育成し、卒業後も継続して地域に関わり続けられるような持続可能な仕組みへと発展させていきたいと考えております。皆様の引き続きのご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。